

笠岡諸島の紹介

特定非営利活動法人かさおか島づくり海社



おはなしすること

1. わたしたちについて
2. 笠岡諸島の概要
3. 笠岡市の概要
4. 笠岡諸島の魅力（環境・食べ物など・文化）
5. 笠岡諸島の現状
6. 笠岡諸島のビジョン・課題

1. わたしたち（NPO法人かさおか島づくり海社）について

暮らしサポート



産業・取組サポート



交流サポート



学びサポート



1. わたしたちについて

かさおか島づくり海社のあゆみ

沿革

- | | | | |
|------------------|---|------------------|--|
| 1996年
(平成 8年) | ゲンキ笠岡まちづくり支援事業(笠岡市) | 2005年
(平成17年) | 笠岡諸島の弁当「しまべん」発表 |
| 1997年
(平成 9年) | ゲンキ笠岡まちづくりフェスティバル開催
島おこし討論会開催
島をゲンキにする会発足 | | 北木島にて須磨学園中学校サマーキャンプの
受入れ開始 |
| 1998年
(平成10年) | 第1回島の大運動会開催(北木島) | | 笠岡諸島フィルムコミッションで初の映画誘致
「旅の贈り物 0:00発」 |
| 1999年
(平成11年) | 笠岡諸島生き活き会(女性ネット)発足 | | 笠岡諸島空き家めぐりツアー開始 |
| 2000年
(平成12年) | 笠岡諸島ホームヘルパー2級養成講座実施
第1回島づくり研修会開催(白石島) | 2006年
(平成18年) | かさおか島づくり海社としてNPO法人格取得
北木島で過疎地有償運送事業開始
幼児育成施設「六島あゆみ園」開園 |
| 2001年
(平成13年) | 笠岡市が市長特命組織「島おこし海援隊」設置
飛島で診療所の開設 | 2007年
(平成19年) | 介護保険事業「海社デイサービスほほえみ」開所
島の特産品直売所
アンテナショップ「ゆめポート」運営開始 |
| 2002年
(平成14年) | 電腦笠岡ふるさ島づくり海社設立(島民組織)
笠岡諸島フィルムコミッション設立
笠岡諸島空き家対策事業開始(高島から)
笠岡市立北木島診療所の開設
笠岡市立真鍋島診療所に看護師常駐 | 2008年
(平成20年) | 真鍋島回漕店運営開始
笠岡住吉港に「特設島づくり海社案内所」開設
島づくり仕事人塾開設
第1回真鍋島で子育て島せんかツアー(移住促進)開催
「岡山商科大学」と「笠岡市」との産官学連携に
関する包括連携協定 締結 |
| 2003年
(平成15年) | 買い物支援事業「島のお達者便」
(北木島豊浦地区で開始(のちの島のきずな便)) | | |
| 2004年
(平成16年) | 笠岡諸島空き家対策事業で初の移住者(高島)
フェリー乗り場環境改善のため
伏越港駐車場「島海車」運営開始 | | |



1. わたしたちについて

かさおか島づくり海社のあゆみ

沿革

2009年
(平成21年)

子ども島づくり会議ーコジマ会議ー開催

「海社デイサービスすみれ」開所

「海社デイサービスだんだんの家」開所

灰干しの製造・加工・販売を開始(株式会社島のこし)

真鍋島公会堂「五里五里」開設

「婆ちやるショップ高島屋」開設(高島)

2010年
(平成22年)

特産品通販サイト「笠岡ええもん屋」運営開始

2011年
(平成23年)

「海社デイサービスうららの家」開所

青少年の島「梶子島」岡山県より管理運営受託

東日本大震災を受け島内の空き家を被災者に疎開地として提供する事業開始
同時に支援物資を被災地へ提供

2012年
(平成24年)

白石島回漕店「し〜ポート」運営開始

笠岡諸島定期船航路統合記念事業実施

ミステリーツアー「航路長餅」配布

2013年
(平成25年)

笠岡市制施行60周年記念事業「島の大学芸会」開催

買い物支援事業「島のきずな便」北木島豊浦で開始

2014年
(平成26年)

買い物支援事業「島のきずな便」六島で開始

北木ノースデザインプロジェクト開催

瀬戸内海における国際海洋観光ネットワーク構築

フォーラム開催

地域観光プロデューサー養成事業受託

本部事務所を旧豊浦幼稚園園舎へ移転

2015年
(平成27年)

北木島宿泊研修所・高齢者共同生活住居
「石切りの杜」笠岡市より指定管理受託

2016年
(平成28年)

北木島下浦海水浴場 海の家「海ほたる」開始

島の特産品直売所
アンテナショップ「ゆめポート」運営休業

2017年
(平成29年)

離島と企業をつなぐ「しまっちんぐ2017」参加

「瀬戸の島のりせんべい」試作・販売

豊浦地区交流拠点整備事業実施

灰干し「魚々干し」がかさおかブランドに認定

2018年
(平成30年)

祝！「第20回島の大運動会」白石島で開催



NPO法人

かさおか島づくり海社

1. わたしたちについて

かさおか島づくり海社のあゆみ

沿革

- 2019年
(令和元年)
- 住吉港駐車場「わいわい！島駐社場」運営開始
 - 全国離島の特産品直売所・笠岡諸島案内所
島のコンシェルジュ「しまのこし」運営開始
- 2020年
(令和 2年)
- 幼児育成施設「六島あゆみ園」休園
 - 笠岡諸島交流センター交流活性化事業笠岡市より業務受託
 - 笠岡諸島・全国離島特産品販売所「ゆめぼ〜と」運営開始



1. わたしたちについて

主な賞歴

- 2002年
(平成14年) 地域づくり表彰 総務大臣賞受賞
(活力のあるまちづくり 人づくり部門)
- 2007年
(平成19年) 地域づくり表彰 国土交通大臣賞受賞
地域づくり全国交流会議 四万十大会実行委員会会長賞受賞
- 2008年
(平成20年) 岡山県夢づくり推進大賞 岡山県知事賞受賞
生涯学習功労者表彰 岡山県教育委員会賞受賞
立ち上がる農山漁村 選定
- 2010年
(平成22年) 豊かな村づくり表彰 農林水産大臣賞受賞
- 2016年
(平成28年) 地域再生大賞 大賞受賞
- 2018年
(平成30年) よっちゃんれの夜2018出場 準優勝受賞
- 2019年
(平成31年) 山陽新聞奨励賞受賞 (社会部門)
- 2019年
(令和元年) よっちゃんれの夜2019出場 最優秀賞受賞



2. 笠岡諸島の概要



笠岡諸島データ (2022.9.1時点)

人 口 : 1,361人
高齢化率 : 74.4%

【笠岡諸島】

岡山県の南西端の笠岡市沖にあり、大小31の島々で構成。その内の高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島の7島が有人島である。

【アクセス】

各島へは、住吉港から運航している旅客船で行くことができ、白石島と北木島へは伏越港からフェリーも運航している。

2. 笠岡諸島の概要

広島県の県境にある笠岡市



本土から定期船で1時間以内



3. 笠岡市の概要



戦前までの主力産業は花卉を含む農業と島嶼部の採石業。戦後は**備後工業整備特別地域**として、市内には日本鋼管福山製鉄所（JFEスチール）が誘致され、福山市などと共に工業化が進んだ。また新たに造成された広大な笠岡湾干拓地では酪農を含めた農業が発展している。

山陽新幹線、山陽本線、山陽自動車道、国道2号線といった中国地方の主要な物流、**交通の大動脈が市内を東西に縦貫している。**

【人 口】 45,133人

【高齢化率】 38.2%

※2022.9.1時点

4. 笠岡諸島の魅力 〈環境〉

高島

漁師とつつじの島

歴史ある史跡が古代のロマンをかきたてる



漁師とつつじの島



住吉港から約8km沖合の高島は、古くから瀬戸内海航路の要衝として栄えたといわれ、古事記に記されている神武天皇東征の際の高島行宮（あんぐう）が置かれた島、という説もあります。

南側には尾根伝いに延びる遊歩道があり、登っていくと、途中の展望台からは360度、瀬戸内の穏やかな風景が見渡せます。またつつじの季節には、島民の方が大切に育てたつつじが群生して咲く様子も見られます。

かつては採石業と海運業が盛んだったそうですが、島の漁師が獲った新鮮な魚を提供する民宿や、風景を目当てに訪れる観光客の増加などもあり、今では観光と漁業の島となっています。

また、観光底引き船、定置網などの漁師体験も、近年人気を得ています。

白石島

祈りとマリンスポーツの島

夕焼けの中踊る白石踊は神秘的



祈りとマリンスポーツの島



周囲約10kmの笠岡諸島で2番目に大きい白石島は、古来有名な風光明媚の地であり、国指定の名勝にもなっています。

お盆に行われる国指定重要無形民俗文化財の「白石踊」は源平水島合戦の戦死者の霊を弔うために始まったと言われており、唄い手と太鼓の周りを円を描いて様々な型の踊り手が回る、全国的にも非常に珍しい盆踊りであり、踊りの見学や体験ツアーも毎年行われ、多数の観光客を魅了しています。

夏の白石島は海水浴客も多く、岡山県の三大海水浴場にも数えられ、民宿、海の家もありシーカヤックなどのマリンスポーツも楽しむことができます。また国際交流ヴィラもあり、外国人観光客の姿もよく見られる島となっています。

その他にも、見どころは多く、鬼ヶ城と呼ばれる山の頂上近くにある「錯岩」は、国指定天然記念物になっており、碁盤の目のように割れ目が入り、縦横の節理が直角に交差し錯の直垂に似ているといった、まさに名前の通りの錯のような岩となっています。

また、錯岩に続く高台には昭和45年に建立された白色に輝く「仏舍利塔」があり、タイのワットパクナム寺院から奉納された仏舍利（お釈迦様の骨）と1200年前の釈迦如来像が祭られています。



NPO法人

かさおか島づくり海社

4. 笠岡諸島の魅力

北木島

石と流し雛の島。
荒々しい採石跡が島の歴史を物語る。



石と流し雛の島



笠岡諸島最大の島で、人口は約960人（H26.9）、お笑い芸人「千鳥」の大喜の出身地として近年認知されつつあります。

花崗岩の産出と加工で栄え、岡山県産『北木石』は、香川県産『庵治石』、愛媛県産『大島石』と並び、瀬戸内の三大銘石の産地として称されました。内陸の道路網が未整備だった時代に、船を利用した海運による納期厳守と良質な大材が採れることにより、全国各地だけでなく海外にまでその名を馳せ、かつては、一大産地として君臨していたとも言われています。

その実績としては、徳川幕府が再築した大坂城の石垣、旧日本銀行本店、明治神宮、靖国神社などで北木島の石が用いられました。現在では安価な輸入石材に押されて採石は減ったものの、石材加工の技術もあるためその輸入石材の加工が盛んです。

現在の豊浦地区・金風呂地区には、表面を削り取られた山々が、かつて石材産業が繁栄を極めた痕跡を残すようにそびえています。

また、北木島の流し雛は和歌山県加太の浦の淡島明神信仰にまつわる行事として300年ほどの歴史があり旧暦3月3日直前の日曜日に、北木島大浦地区で行われています。

「流し雛」とは、麦藁で作った「空船（うつろふね）」に、桃の花や菱餅とともに、紙で作った雛を乗せ海へ流すと、その年は無病息災でいられると言われる女性の厄除け行事です。『源氏物語』須磨の巻に光源氏がお被いた人形（ひとかた）を舟に乗せて須磨の海へ流すという著述があり、原型は遠く平安時代にさかのぼるといわれています。かつては全国各地で行われていた行事ですが、岡山県をはじめ今ではほとんど姿を消したといわれています。

〈環境〉

真鍋島

歴史と映画の島。
のんびりと歩いて昔ながらの漁村を楽しむ



歴史と映画の島



住吉港から約18kmにある島で、島名は、真南辺の島、つまり備中国小田郡の南端にある島という意味で、後に真鍋の字をあてたと考えられています。

平安時代末期に藤原氏の一族が水軍の根拠地を置いて真鍋氏を名乗り、全盛期には付近の島々をことごとく支配下に治めていたという説や、源平合戦で平家方に属した真鍋氏の城址や供養のために建てたと伝えられる石造宝塔などの史跡があり、また西行法師の「山家集」に詠まれるなど、歴史を今に伝える記録や史跡・行事の多さは、笠岡諸島でも随一です。

港には石積みので防があり、のどかな漁村の佇まいを残している島として岡山県が「ふるさと村」に指定しており、「瀬戸内少年野球団」など映画のロケ地にもなった風景は、走り神輿などの有名なイベントの効果もあって、多くの観光客を魅了しています。



NPO法人
かさおか島づくり海社

4. 笠岡諸島の魅力 〈環 境〉

飛島

潮待ちと椿の島。

寄りそう大小の島にはかつて砂の架け橋がかかった。



住吉港から約18kmにある島で、一般的に大飛島・小飛島をあわせて飛島（ひしま）と呼ばれます。笠岡諸島は古くから瀬戸内海の交通の要衝で、中でも大飛島付近は瀬戸内海の東西の潮が離合する場所といわれ、往来する船がこの地で潮待ちをしていたと考えられています。その潮待ちの島、ならではなかは分かりませんが、奈良時代から平安時代にかけての祭祀遺跡が発見され、おびただしい数の奉獻品が出土したということがあり、笠岡諸島の中でも飛島が重要な地であったことが伺えます。かつては、大飛島の南東にある大浦港の近くから、東に砂洲が島のくちばしのように小飛島に向かって延び、大飛島と小飛島を結ぶ架け橋ともいわれていましたが、潮流の変化の影響などから現在では殆ど見ることはできなくなっています。2～3月には島内に自生している300本余りの椿が見頃を迎え、島を周遊する4kmのハチマキ道を巡って楽しめます。地元のグループにより椿油づくりや、島のおもてなしとして古くから手打ちうどんづくりが有名です。

六島

灯台と水仙の島。

白い灯台と水仙が美しく青空に映える。



住吉港から約22kmにあり、笠岡諸島最南端の島であるとともに、岡山県の最南端でもあります。六島の南約4.5kmにある香川県庄内半島三崎との間は、潮流の速い海峡で、瀬戸内海を横断する大型客船などの重要航路となっています。この航路の安全を守るため、六島には岡山県で最初に灯台が設置されました。その灯台の周辺をはじめ、島内のあちこちに島民の方々が中心となって植えた水仙が、1月から2月にかけて可憐な花を咲かせ、その水仙群生を目当てにシーズンには多くの観光客が訪れます。



NPO法人

かさおか島づくり海社

4. 笠岡諸島の魅力 〈食べ物など〉



左より イカ・タイ・アジ・タコ

北木島の天然灰干し「魚々干し」



六島の六島浜醸造所によるクラフトビール

4. 笠岡諸島の魅力 〈食べ物など〉



北木島 勇和水産の牡蠣



六島 天然ひじき

4. 笠岡諸島の魅力 〈文 化〉



真鍋島 走り神輿



六島 大鳥神社の神輿行事

4. 笠岡諸島の魅力 〈文 化〉



北木島「石切唄」



白石島「白石踊」 ※国指定の重要無形民俗文化財

5. 笠岡諸島の現状

- 少子高齢化による事業・地域活動の担い手不足
- 民間事業者の撤退によるサービスの減少
（移動手段、買い物先・手段）
- 島間の連携・交流機会の減少
- 空家・空工場の増加

6. 笠岡諸島のビジョン・課題

ビジョン

**「島で生まれ 島で育った人たちが 島で住み続けられる」
いつまでもそんな笠岡諸島であり続けたい**

6. 笠岡諸島のビジョン・課題

課 題

○空き家・空き工場の利活用の推進

○コミュニティの創出・紡ぎなおしに繋がる雇用の創出

6. 笠岡諸島のビジョン・課題

○空き家・空き工場の利活用の推進



北木島はかつて石の加工場として使われていた工場群が、空工場となっている。

6. 笠岡諸島のビジョン・課題

○空き家・空き工場の利活用の推進



徒歩数分で海、といった空家も多く存在する。

6. 笠岡諸島のビジョン・課題

○コミュニティの創出・紡ぎなおしに繋がる雇用の創出



島でのお餅つき



島の特産品開発

雇用の創出により、島内外より人が集い生活する場を創出し、暮らしの支え合いの維持や、民間事業者のサービスの継続などに繋げたい。

「島で暮らし続ける」をあきらめないために

私たちと一緒に仕組み作りに挑戦して下さる人を待っています！

